

研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
Research Project: Women in Research for Future of Science and Technology

実施期間： 2007～2009 年度

Term of the Project: 2007-2009 fiscal years

研究代表者： 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／
お茶の水女子大学名誉教授／理化学研究所研究嘱託

Project Leader: Dr. Atsuko ITO, IIAS Fellow; Project Representative on the IIAS Planning Board;
Professor Emeritus, Ochanomizu University;
Research Adviser, RIKEN

研究目的：

今後の学術・科学技術の発展にとって、女性の活躍が不可欠である。現在は女性の力が豊富に温存されている状況にある。女性の潜在力を活かすことによって、学術・科学技術の発展が加速されると共に、新しい展開も期待される。女性の活躍による効果の例をあげれば、① アイデアを生む層が厚くなる、② 女性独自の視点による科学の新しい展開が期待される、③ 少子化の時代を支える一女性の實力を社会に示す好機である、などなど。

本研究会においては、どのような環境があれば女性の研究者が育つか、女性の科学者が多数輩出する環境作りにはどのような努力が必要か、「科学する心」をもつ女性の層を厚くするにはどのような努力が必要かなどを議論し、具体的な方策を提示することを目指す。

上記の課題については、2005 年度と 2006 年度の 2 年間に亘って、「高度科学技術に伴う広域・学際的諸課題」の下に設けられた作業部会「女性研究者と科学の未来」において議論を進めてきた。作業部会での検討結果を踏まえつつ、独立した研究会として議論を深めることを目指す。

Objectives:

Participation of women is essential to future promotion of science and technology. In the present situation, the women's potential is scarcely utilized and preserved. By putting their faculties to practical use, the future promotion of science and technology must be accelerated, and a flesh development of science and technology is expected. The desirable effects, for example, are (1) the population of innovative scientists are expanded, (2) sciences and technologies according to unique point of view of women are evolved, (3) the social demand to protect the young population in science and technology from the rapid decline of general population is responded, which is a golden opportunity for women to show their real power, etc.

In this study group, we will investigate the following issues. (1) What circumstance and atmosphere motivate women to become scientists. (2) What effort should be made to prepare the social environment, in which woman scientists can come forth in great numbers. (3) What effort is necessary to achieve a large population of women with a "spirit of science". We will then suggest concrete plans for approaching.

In 2005 and 2006, we studied and discussed the subjects mentioned above in the working group titled "Women in Research for Future of Science". On the ground of the discussion made, we will intend to deepen our discussion in an independent study group.

キーワード： 女性研究者、女性科学者、科学技術の未来 研究環境 教育環境 科学技術社会、
科学する心

Key Word: woman researcher, woman scientist, future of science and technology,
research-environment, education-environment, advanced science and technology
society, spirit of science

参加研究者リスト： 24名（◎研究代表者）

氏名	職名等
◎伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授 理化学研究所研究嘱託（物性物理）
今成 真	科学技術振興機構イノベーション推進本部開発主監 （触媒化学／有機化学／研究管理）
岩村 道子	東邦大学名誉教授（生物有機化学）
大山 光晴	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校教頭（物理） （2008年度より参加）
奥村 晶子	学校法人佐保会学園理事長／元奈良女子大学理学部化学科教授（化学）
川崎 和子	奈良女子大学名誉教授（物性物理）
沢田 康次	国際高等研究所フェロー／東北工業大学長／東北大学名誉教授（情報物理）
高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長／大阪府立大学名誉教授 （科学技術政策）
富崎 松代	奈良女子大学理学部教授（数学）
鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授（物質科学）
中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授（原子核物理）
野口 哲子	奈良女子大学理学部教授（細胞生物）
野末 泰夫	大阪大学大学院理学研究科教授（物性物理）
肥山 詠美子	理化学研究所仁科加速器研究センター素粒子物性研究部門肥山ストレンジネス 核物理研究室准主任研究 （2009年度より参加）
藤枝 修子	お茶の水女子大学名誉教授（化学）
藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授（音声言語）
松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教（物性物理）
室伏 きみ子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授（生物）
本河 光博	国際高等研究所フェロー／科学技術振興機構先端計測技術推進部プログラムオフィ サー（開発統括）／東北大学名誉教授（物性物理）
横山 広美	東京大学大学院理学系研究科准教授（広報・科学コミュニケーション）
若林 文高	国立科学博物館理工学研究部理化学グループ研究主幹（化学）
J.C.Williams	Texas 大、Ohio 州立大勤務後 ATR, NTT 研究所の客員研究員など歴任 （音声言語コミュニケーション）
新庄 輝也	国際高等研究所フェロー／京都大学名誉教授（物質科学） （2007～2008年度）
古屋 美和	科学技術振興機構戦略的創造事業本部先端計測技術推進室主査 （2007年度）

研究活動実績：

2007 年度

1. “第 3 期科学技術基本計画”の基幹政策について、策定時の関係者 3 名に解説を依頼した。講演に引き続いて、質疑応答、ならびに、意見交換を行った。特に、我が国の今後の科学技術振興に必要な改革と人材育成について、いろいろな視点からの議論があった。
2. サイエンス・メディアーションの調査研究（代表者 高橋克忠）から明らかになった“科学技術に対する市民の意識”について報告があった。本研究会の一つの課題である「科学する心の涵養」の議論を進める上で重要な視点（自然科学と社会科学の融合）が提示された。
3. 自然科学分野で活躍する女性研究者を増やすためには、男女を問わず科学を志向する次世代の層を厚くすることが火急の課題である。進路選択の要因についての調査報告（大学生対象のアンケート）、初等中等教育、および、親子で楽しむ科学実験教室の取り組みに関する講演から見えてきた環境・教育のあり方について議論した。
4. 科学技術振興機構（JST）が取り組んでいる学校教育の支援策について紹介があった。（1）月刊科学雑誌“Science Window”を 2007 年 4 月に創刊し、小中学校・高等学校、科学博物館などに無料で配布している。（2）小学校に理科支援員を派遣する事業で、平成 19 年度に開始。質疑応答を通じて、両支援策が理科教育で有効に活用されるよう、JST として努力して欲しいと伝えた。

研究会開催実績：

- 第 1 回： 2007 年 7 月 7 日 （於：高等研）
第 2 回： 2007 年 12 月 7 日～8 日 （於：高等研）
第 3 回： 2008 年 2 月 29 日～3 月 1 日 （於：高等研）

話題提供者： 9 名

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 井上 文敏 | 東京都港区立高輪台小学校長 |
| 内丸 幸喜 | 東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長・教授 |
| 大山 光晴 | 千葉市立稲毛高等学校・附属中学校教頭 |
| 川端 和明 | 東京農工大学学長特任補佐・産官学連携・知的財産センター教授 |
| 柴田 純 | 宝仙学園中学高等学校教諭 |
| 十河 直幸 | 株式会社ベネッセコーポレーションベネッセ教育研究開発センター研究員 |
| 藤田 明博 | 文部科学省研究開発局長 |
| 村松 泰子 | 東京学芸大学副学長・教育学部教授 |
| 吉田 信也 | 奈良女子大学附属中等教育学校副校長 |

2008 年度：

2007 年度に引き続き、科学技術分野で女性の活躍を促進する対策を検討する上で重要と考えられる課題について議論を行った。議論でとり上げた話題は、学校教育から産学連携まで多岐に亘った。

1. 理科の面白さを伝える企画の報告があった：1) 女子生徒を対象にした夏の学校（国立女性教育会館、2008 年 8 月）、2) 理科のスポット講義（慶応義塾大学附属女子高校、2008 年 6 月）。講演者たちによれば、この種の催しは生徒たちを理科好きにするのに大いに効果があったとのことである。
2. 男性と女性の脳の発達過程などの性差に関する話題を取り上げた。明らかに身体的な性差はあるが、知的能力や発想に男女差は認められないというのが一致した見解であった。
3. 遺伝カウンセラーについて、専門家から紹介があった。女性の感性が活かされる分野であり、医師と対等な医療専門職としての資格化を目指しているとのことであった。女性の感性が生きる研究分野を pink-collar job にしない政策の必要性が指摘された。
4. 男性と女性の給与差（平均値）が、年齢が高くなるほど開くとの国立大学協会の調査結果が報告さ

5. 女性の研究者の活躍を促進することを目的とする会合は、国内外で多数開催されている。今年度の研究会で報告のあった会合：1) IUPAP Women in Physics (Seoul, Oct. 2008)、2) Women into Science and Engineering (Seoul, Dec. 2008)。
6. 産学連携、遺伝と環境、その他。

研究会開催実績：

- 第1回： 2008年8月22日～23日 (於：高等研)
 第2回： 2008年10月31日～11月1日 (於：高等研)
 第3回： 2009年1月9日～10日 (於：高等研)

話題提供者：10名

稲葉 カヨ	京都大学大学院生命科学研究科教授
大隅 典子	東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター教授
岡崎 廉治	東京大学名誉教授
滝澤 公子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科講師
千葉 和義	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
永井 克孝	理化学研究所研究顧問／東京大学名誉教授
長谷川眞理子	総合研究大学院大学先導科学研究科教授
長谷川美貴	青山学院大学理工学部准教授
肥山 詠美子	理化学研究所仁科加速器研究センター准主任研究員
村石 幸正	東京大学教育学部附属中等教育学校副校長

2009年度：

2009年度には研究会を2回開催して、2007年度、2008年度に続いて、科学技術分野に関心をもつ女性を増やし、女性の活躍を促進する方策を探る上で重要と考えられる課題について議論を行った。取り上げた課題を以下に列記する。詳細は、各回の報告書に記載して、公表する。

1. 奈良女子大学同窓会が行った大規模なアンケート調査（高等師範学校～大学）の中間報告、及び、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究所の教員が大学2年生に対して行った進路振り返り調査の報告。
2. 女性の人材育成を目指した奈良女子大学の改革。
3. 大学教員の人事のあり方についての問題提起。
4. 企業における女性の活躍：
 - a) 女性技術者（人事部採用グループ担当部長）の視点から。
 - b) 女性技術者（製品化技術開発部長）の家電設計の経験から。
5. 数学分野での女性の活躍（国際比較）。
6. 女性研究者が活躍しやすい環境づくりについて、大学の地域性を勘案した意見、政策など。
7. 情報の時代における還元主義—研究者の性別と関係？

研究会開催実績：

- 第1回： 2009年8月28日～29日 (於：高等研)
 第2回： 2010年1月8日～9日 (於：高等研)

話題提供者：5名

久米 健次 奈良女子大学教授

板東 久美子	文部科学省生涯学習政策局長
平岡 利枝	三菱電機株式会社住環境研究開発センター製品化技術開発部部長
水本 伸子	株式会社 IHI 人事部採用グループ担当部長
室崎 生子	子どもの発達と住まい・まち研究室主宰／元平安女学院大学生生活環境学部教授

Achievement:

2007 fiscal year:

1. We asked three invited speakers* to explain the key policies of “The science and technology third basic plan” (*they are persons concerned to make the plan). Questions and answers followed the lectures. We also exchanged opinions on a subject how we should reform systems in order to promote science and technology further. In addition, we exchanged opinions how to nurture and increase human resources who excel in fields of science and technology.
2. The lecture entitled “Civil consciousness for science and technology” was given on the basis of the report “The research study about science-mediation (project reader: K. Takahashi)”. It brought up an important viewpoint (harmony between natural science and social science) for further discussion on one of our themes “cultivating scientific mind”.
3. In order to increase woman researchers in a field of natural sciences, it is essentially important to change the present situation so that younger generations may orient to this area. Following the reports about dominant causes for students to choose a branch of learning, the challengeable trial in teaching method to classes, and the laboratory programs actually designed for children and the parents, present and future perspectives about necessary conditions involving school programs were discussed.
4. The programs of Japan Science and Technology Agency (JST) were reported, the purpose of which programs assist school education of science. (1) The monthly journal “Science Window” is published since April, 2007. The journal is distributed free of charge to schools, scientific museums, and the like. (2) Science Education Assistant Allocation Project is started from the fiscal year 2007. In the questions and answers, we recommended to JST to continue effort in order that the both programs are applied effectively in science education.

2008 fiscal year:

Continuously from 2007, we studied and discussed the subjects which are important as the ground to suggest plans how to promote the activity of women in science. We took up various subjects being distributed from school education to cooperation between universities and industries.

1. The reports on several meetings for girls which introduce them into science were given: 1) Science summer school for girl students (National Women’s Education Center, Aug. 2008), 2) Spot lecture of science (Keio Girl High School, Jun. 2008). It was reported that these meetings were quite effective for girls in order to teach them an interest of science.
2. Talks about differences between male and female in the bodily structure and development including process of growth of the brain were given. In spite of the bodily difference, it is our view that a difference in mental faculties and originalities based on sex has not been recognized.
3. We learned “counselors about hereditary” from a specialist. She emphasized that the counselor is an example of developing special fields which are prosperous for sensitivity of women. She also stressed that the counselor should be qualified as a specialist in the same status to medical doctors. The following was discussed: The policy is necessary for that in order not to make special fields which are prosperous for sensitivity of women “pink-collar job”.

4. Salary differentials between men and women: According to the statistics investigated by The Japan Association of National Universities, the differentials, on an average, increases as the age does. The following gave rise to discussion: There might be problems when an estimation of abilities in research is made on a chance of employment and promotion. The problem will be studied in the 2009 meeting.
5. In every year, many internal and international meetings were held for supporting activities of women in research. Meetings “IUPAP Women in Physics (Seoul, Oct. 2008)” and “Women into Science and Engineering Conference (Seoul, Dec. 2008)” were reported.
6. Cooperation between universities and industries, Heredity and environment, and others.

2009 fiscal year:

In 2009 fiscal year, we had the research meeting twice and studied and discussed the subjects which are important as the ground to increase number of women who are interested in science and technology, and to promote their activities. The main subjects discussed are listed below.

1. An interim report about the results of the questionnaires conducted on women graduated from Nara Women's University and Nara Women's Higher Normal School, and a report about the questionnaires conducted on students of the second grade of Nara Women's University.
2. A reform of the education and administration of Nara Women's University aiming to nurture women of talent.
3. A model process is suggested how a faculty staff estimate and select a new associate professor and assistant professor.
4. Activities of women engineers at industries:
 - a) From a view point of a woman engineer with a title of General Manager Recruiting Group Human Resources Division.
 - b) From a view point of a woman engineer who designed various home appliances (Home Appliance Department Senior Manager).
5. Activities of women in a field of mathematics (international comparison).
6. Ideas for improvement of social and research conditions are suggested in order to increase woman's activities.
7. Reductionism in science and technology in the information age: Is the issue related to gender of the researcher?

研究活動総括：

日本においては、国際的に見て、学術・科学技術分野で活躍する女性の比率が極めて低い。女性の自然科学系分野への進出を促進することによって、日本における学術・科学技術の進展が加速するに違いないと確信して、女性の研究者、広くは科学者を増やす方策を探る目的で、本研究会を始めた。女性の比率が低いことの主な理由として、二つ挙げられる。1) 自然科学系分野を志す女性の比率が伝統的に低い。2) 自然科学系分野を専攻した女性が中途退職する割合が男性より高い。2) に関しては、男女共同参画の社会運動と並行して、本研究会としても女性の抱えている諸問題改善の方策を議論した。しかし、本研究会で最も時間をかけて議論したのは、女性が自然科学系分野で活躍することの意義と自然科学系分野を志す女性の比率を増やす方策である。しかし、少子化が急速に進行している中で、理科離れの実態が危惧されている現状では、理工系に興味を示す層を厚くする方策に加えて、女性の比率を上げることを目指さなくてはならない。そこで、本研究会では、女性の人材育成を念頭に置きながら、男性をも含めた広い視点で、日本の科学技術を支える人材の育成に関して議論した。研究会は3年度に亘って8回開催して、42名の講演者による講演に続いて質疑応答を行った。以下に、採り上げた課題を

大まかに分類して示す。進路選択の年齢・環境（大学生の調査から）、初等中等教育での理科教育、理科教育支援、女子大学卒業生の追跡調査、環境と遺伝、思考の性差（要素還元型、ネットワーク型）、感性の性差、製品開発における女性の発想と視点、企業における女性の活躍、女性の抱えている諸問題に関する国際会議報告、科学技術政策・女性支援政策、大学教員の女性比率、大学教員給与・昇格人事の男女差—アメリカと日本の場合など。

2010 年度に出版予定の研究会の報告書に、各回の講演要旨（講演者執筆）と質疑応答の記録、および、8回の研究会を総合した纏めを掲載する予定である。

Whole Achievement:

A ratio of women in research in Japan is known to be extremely small as compared with the international situation. In the confidence that the development of science and technology is accelerated by promoting ever-increasing participation of women in science, we planned this research meeting in order to discuss means for increasing women in science. Two major reasons for the small ratio of women in science have been pointed out: 1) A ratio of females setting their mind on learning science is traditionally small. 2) Ratio of women who learned science stops working halfway is large as compared with men. Concerning 2), in parallel with the social movement for the gender equality, we discussed various plans for improving the situations which women in research faced with. However, we put many hours for discussing following subjects: significance of women's activity in fields of science and technology; policy and means for increment of a ratio of women (females) who take interest in science. At that time, simultaneously, we paid our attention to rapid declining of birthrate and a ratio of population having interests in science. In that situation, we have to aim to increase a ratio of women in science. So, in our meeting, by giving our mind to increase females in science, we discussed educations of science from a wide point of view including males. We had the meetings eight times during 2007~2008 fiscal years, and we took much time for discussion after the 42 lectures. Below, we listed the themes discussed by classifying into several groups: Selections of a course -age and environment- examined by a questionnaire for the university students; Education of science in elementary and secondary schools; Supporter for education of science in elementary schools; Follow-up of a woman's university graduates (by a questionnaire); Environment and heredity; Difference of process of the thinking between men and women (reductionism (control type) and network type); Difference of sensibility between the genders; Differences in a conception and a point of vision between men and women when home appliances are designed; Activities of woman's engineers in industries; International conferences for discussing various problems that women in research are now faced with; Policy for science and technology/ active support policy for women in research; Ratio of woman's teachers in universities; Difference in salary and promotion for man's and woman's teachers at universities-in the case of the US and Japan; and so on.

We are planning to publish, in 2010 fiscal year, the report of the meeting. We will insert the abstracts written by each speaker and the detailed records of the discussion. In addition, we include the summaries of the opinions and suggestions discussed throughout all of the meetings by dividing into several heads.

研究成果報告書の出版：

研究成果報告書は 2011 年 3 月出版予定

（中間報告として、2010 年 6 月を目途に、作業部会（2005～2006 年度）で行ったアンケート調査結果をまとめて、小冊子として出版予定）

担当：尾池所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2007年度第1回研究会プログラム

開催日時：2007年7月7日（土） 9：30～17：30

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（19人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員 お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 （15人）	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	今成 真	三菱化学株式会社顧問／JST産学連携事業本部開発主監
	金森 順次郎	国際高等研究所長
	** 高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	富崎 松代	奈良女子大学理学部教授
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー 高エネルギー物理学研究所名誉教授
	野末 泰夫	大阪大学大学院理学研究科教授
	藤枝 修子	お茶の水女子大学学術情報機構 特任教授
	古屋 美和	独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造事業本部先端計測技術推進部主査
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	室伏 きみ子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
	本河 光博	国際高等研究所フェロー・特別委員／東北大学名誉教授 科学技術振興機構先端計測技術推進室 PO
	横山 広美	東京大学大学院理学系研究科准教授
	若林 文高	国立科学博物館理工学研究部理化学グループ研究主幹

**：スピーカー

話題提供者 （ゲストスピーカー） （3人）	内丸 幸喜	東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長・教授
	川端 和明	東京農工大学学長特任補佐・産官学連携・知的財産センター教授
	藤田 明博	文部科学省研究開発局長

プログラム

7月7日(土)

- 9:30 研究会〔216号室〕
はじめに : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員
お茶の水女子大学名誉教授
- 9:40 国際高等研究所について : 金森 順次郎 国際高等研究所長
- 10:00 司 会 : 中井 浩二 国際高等研究所フェロー
高エネルギー物理学研究所名誉教授
話題提供者: 藤田 明博 文部科学省研究開発局長
演題「第3期科学技術基本計画の背景(人材育成と国家基幹技術)」
- 11:00 休憩
- 11:10 司 会 : 鳥養 映子 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
話題提供者: 高橋 克忠 特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
演題「科学技術に対する市民の意識
ーサイエンス・メディアエーションの調査研究から」
- 12:10 昼食〔コミュニティホール〕、所内見学
- 13:20 司 会 : 本河 光博 国際高等研究所フェロー・特別委員/東北大学名誉教授
科学技術振興機構先端計測技術推進室 P0
話題提供者: 川端 和明 東京農工大学学長特任補佐
産官学連携・知的財産センター教授
演題「第3期科学技術基本計画についてー基本概念と戦略的重点化」
- 14:20 休憩
- 14:30 話題提供者: 川端 和明 東京農工大学学長特任補佐
産官学連携・知的財産センター教授
演題「第3期科学技術基本計画についてー科学技術システム改革」
- 15:40 司 会 : 野末 泰夫 大阪大学大学院理学研究科教授
話題提供者: 内丸 幸喜 東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長・教授
演題「社会ニーズに応える科学技術
ー社会の安全・安心に資する科学技術、文化芸術に資する科学技術ー」
- 17:10 第2回以降の研究会について
- 17:30 高等研発酔月へ移動(タクシー)
- 18:00~20:00 懇親会〔酔月〕

配付資料(すべて公開不可)

- ・ 藤田 明博「第3期科学技術基本計画の背景(人材育成と国家基幹技術)」
- ・ 川端 和明「『科学技術基本計画』の概要」ほか
- ・ 内丸 幸喜「社会ニーズに応える科学技術」ほか

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2007年度第2回研究会プログラム

開催日時：2007年 12月7日（金） 13：00～17：30
12月8日（土） 9：30～17：10

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：(21人)

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員 お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 (15人)	今成 真	三菱化学株式会社顧問／JST産学連携事業本部開発主監
	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	奈良佐保短期大学理事長／元奈良女子大学理学部化学科教授
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	新庄 輝也	国際高等研究所上級研究員／京都大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー 高エネルギー物理学研究所名誉教授
	野口 哲子	奈良女子大学理学部教授
	野末 泰夫	大阪大学大学院理学研究科教授
	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
	古屋 美和	独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造事業本部先端計測技術推進部主査
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	若林 文高	国立科学博物館理工学研究部理化学グループ研究主幹

Julia Catalina Williams

Independent Researcher in Language and Speech

話題提供者 (ゲストスピーカー) (5人)	井上 文敏	東京都港区立高輪台小学校長
	大山 光晴	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校教頭
	柴田 純	宝仙学園中学高等学校教諭
	十河 直幸	株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ教育研究開発センター 研究員
	吉田 信也	奈良女子大学附属中等教育学校 副校長

プログラム

12月7日(金)

- 13:00 話題提供者: 十河 直幸 株式会社ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育研究開発センター研究員
演題「理工系学生の進路選択過程について
～進路選択に関する振り返り調査より～」
- 15:30 休憩
- 15:40 話題提供者: 大山 光晴 千葉市立稲毛高等学校・附属中学校教頭
演題「児童・生徒が科学の道を選択するための
理科の授業と進路指導の在り方」
- 17:30 高等研発酔月へ移動(タクシー)
- 18:00～20:00 懇親会〔酔月〕

12月8日(土)

- 9:30 話題提供者: 井上 文敏 東京都港区立高輪台小学校長
演題「小学校における理科の今」
- 10:30 休憩
- 10:40 話題提供者: 柴田 純 宝仙学園中学高等学校教諭
演題「女子教育における能動的理系キャリアプログラム」
- 12:00 昼食〔コミュニティホール〕
- 12:40 話題提供者: 吉田 信也 奈良女子大学附属中等教育学校副校長
演題「中高一貫SSH(スーパーサイエンスハイスクール)で育つ生徒」
- 15:00 休憩
- 15:10 話題提供者: Julia Catalina Williams
Independent Researcher in Language and Speech
演題「Ohio State University's Women in Engineering Outreach
to Girls, grades 3-12 (8-18 years old)」
- 15:40～17:10 自由討論・今後の研究会の企画について

配付資料(公開不可)

- ・ 十河 直幸「理工系学生の進路選択過程について～進路選択に関する振り返り調査より～」
- ・ 大山 光晴「理科の苦手な小学校教員への『理科支援員等配置事業』試行の成果と課題」
- ・ 井上 文敏「小学校の理科教育」
- ・ 柴田 純 「女子教育における能動的理系進学支援プログラム」
- ・ 吉田 信也「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究の概要」
- ・ J. Catita Williams「OSU Women in Engineering Outreach to girls, grades 3-12(8-18years old)」

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2007年度第3回研究会プログラム

開催日時：2008年2月29日（金） 13：00～17：10
2008年3月1日（土） 9：30～17：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（13人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員 お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 （11人）	** 岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	奈良佐保短期大学理事長／元奈良女子大学理学部化学科教授
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	** 高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー 高エネルギー物理学研究所名誉教授
	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
	古屋 美和	科学技術振興機構戦略的創造事業本部 先端計測技術推進部主査
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	** 室伏 きみ子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
	若林 文高	国立科学博物館理工学研究部理化学グループ研究主幹

**：スピーカー

話題提供者 村松 泰子 東京学芸大学副学長
（ゲストスピーカー）
（1人）

プログラム

2月29日(金)

13:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者： 室伏 きみ子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授

演題「科学技術振興機構（JST）による新しい科学雑誌の発刊：
教育の場に爽やかな科学の風をはこぶ“Science Window”」

14:20 休憩

14:30 質疑応答

15:20 休憩

15:30 話題提供者： 高橋 克忠 特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長

演題「親子で楽しむ科学実験教室
ーその理念とけいはんな学研都市での実践例」

16:20 質疑応答

17:10 高等研発酔月へ移動（タクシー）

18:00～20:00 懇親会〔酔月〕

3月1日(土)

9:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者： 大木 茂 科学技術振興機構理数学習支援部理科学習支援課長

代理報告者： 岩村 道子 東邦大学名誉教授

演題「JSTの小学校理科教育支援事業について」

11:00 休憩

11:10 質疑応答

12:10 昼食〔コミュニティホール〕

13:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者： 村松 泰子 東京学芸大学副学長

演題「理科学習とジェンダーー全国中学生調査を踏まえてー」

14:30 休憩

14:40 質疑応答

15:40 休憩

15:50～17:00 自由討論・今後の研究会の企画について

配布資料（公開不可）

- ・ Science Window2月号、3月号
- ・ 高橋 克忠「親子で楽しむ科学実験教室ーその理念とけいはんな学研都市での実践例」
- ・ 大木 茂「JSTの小学校理科教育支援事業について」
- ・ 村松 泰子「理科学習とジェンダーー全国中学生調査を踏まえてー」

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2008年度第1回研究会（通算第4回）プログラム

開催日時：2008年8月22日（金） 13：30～17：05
2008年8月23日（土） 9：30～17：00

開催場所：国際高等研究所216号室（2F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（20人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者	今成 真	三菱化学株式会社顧問／JST産学連携事業本部開発主監
（16人）	** 岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	学校法人佐保会学園理事長
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	新庄 輝也	国際高等研究所上級研究員／京都大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	富崎 松代	奈良女子大学理学部教授
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
	野口 哲子	奈良女子大学理学部教授
	野末 泰夫	大阪大学大学院理学研究科教授
	** 藤枝 修子	お茶の水女子大学学術情報機構 特任教授
		お茶の水女子大学名誉教授
	藤村 靖	オハイオ州立大学名誉教授
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	本河 光博	国際高等研究所フェロー・特別委員／東北大学名誉教授
		科学技術振興機構先端計測技術推進部 PO

Julia Catalina Williams

Independent Researcher in Language and Speech

**：スピーカー

話題提供者	滝澤 公子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科講師
（ゲストスピーカー）	千葉 和義	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
（3人）	村石 幸正	東京大学教育学部附属中等教育学校副校長

プログラム

8月22日(金)

13:30 研究会〔216号室〕

はじめに : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員
お茶の水女子大学名誉教授

13:35 話題提供者: 千葉 和義 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
演題「女であること。男であること。
ー性のもつ意味を生物学的に考えるー」

14:35 質疑応答

15:15 休憩

15:25 話題提供者: 滝澤 公子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科講師
演題「日本における遺伝カウンセラーの育成
ー羽ばたけ女性の感性が輝く分野へ」

16:25~17:05 質疑応答

8月23日(土)

9:30 研究会〔216号室〕

話題提供者: 藤枝 修子 お茶の水女子大学学術情報機構特任教授
お茶の水女子大学名誉教授

演題「21世紀型女性研究者支援ーお茶の水女子大学の取り組みから」

10:30 質疑応答

11:10 休憩

11:20 話題提供者: 岩村 道子 東邦大学名誉教授
演題「理系進学を目指す女子高生が求めている情報
ー慶応女子高でのスポット講義から」

12:00 昼食〔コミュニティホール〕

13:00 研究会〔216号室〕

話題提供者: 村石 幸正 東京大学教育学部附属中等教育学校副校長
演題「遺伝と環境からの影響 東大附属の双生児研究から」

15:00 休憩

15:15 質疑応答

16:15 休憩

16:25~17:00 自由討論・今後の研究会の企画について

配布資料 (公開不可)

- ・ 伊藤 厚子「私の歩いた物理の道ー時代の流れと選択と」
- ・ 岩村 道子「理系進学を目指す女子高生が求めている情報ー慶応女子高でのスポット講義からー」
- ・ 藤枝 修子「21世紀型女性研究者支援ーお茶の水女子大学の取り組みからー」
- ・ 滝澤 公子「日本における遺伝子カウンセラーの育成ー羽ばたけ女性の感性が輝く分野へー」
- ・ 村石 幸正「遺伝と環境からの影響ー東大附属の双生児研究ー」

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2008年度第2回研究会（通算第5回）プログラム

開催日時：2008年 10月 31日（金） 13：30～17：00
2008年 11月 1日（土） 9：30～17：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（16人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 （11人）	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	学校法人佐保会学園理事長
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
**	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
	野口 哲子	奈良女子大学理学部教授
	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	本河 光博	国際高等研究所フェロー・特別委員／東北大学名誉教授 科学技術振興機構先端計測技術推進部 PO
	若林 文高	国立科学博物館理工学研究部理化学グループ研究主幹

**：スピーカー

話題提供者	稲葉 カヨ	京都大学大学院生命科学研究科教授
（ゲストスピーカー）	岡崎 廉治	東京大学名誉教授
（4人）	永井 克孝	理化学研究所研究顧問／東京大学名誉教授
	肥山 詠美子	理化学研究所仁科加速器研究センター准主任研究員

プログラム

10月31日(金)

13:30 研究会〔セミナー1〕

はじめに : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員
お茶の水女子大学名誉教授

13:35 話題提供者: 永井 克孝 理化学研究所研究顧問／東京大学名誉教授
演題「ライフサイエンスの今ー立ち止まって考えるー」

14:25 話題提供者: 岡崎 廉治 東京大学名誉教授
演題「ケミカルサイエンスとジェンダー

ー共学大学と女子大学での教育・研究の経験からー」

15:15 休憩

15:30~17:00 討論: 永井先生と岡崎先生の講演の話題を中心にして

11月1日(土)

9:30 研究会〔セミナー1〕

Pink-Collar: Inspection of Income Discrimination by Gender
in Academy in US and Japan

ピンクカラー: 大学教員給与の男女格差から見えるもの

話題提供者: 鳥養 映子 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
演題「Statistics in Japan 日本の統計」

10:00 話題提供者: Julia Catalina Williams

Independent Researcher in Language and Speech

(代理: 鳥養 映子 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授)

演題「Statistics in US 米国の統計」

10:40 討論: Towards True Gender Equity in Academy 真の公平とは

11:20 休憩

11:30 話題提供者: 稲葉 カヨ 京都大学大学院生命科学研究科教授
演題「京都大学女性研究者支援センターの取り組み」

12:20 昼食〔コミュニティホール〕

13:00 研究会〔セミナー1〕

IUPAP Women in Physics 国際会議(ソウル)報告:

鳥養 映子 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授

肥山 詠美子 理化学研究所仁科加速器研究センター准主任研究員

13:50 質疑応答

14:20 休憩

14:30 話題提供者: 稲葉 カヨ 京都大学大学院生命科学研究科教授
演題「身体を護る免疫の仕組み

ーアレルギーや自己免疫疾患の発症と性差などー」

15:30 質疑応答

16:00 休憩

16:10~17:00 自由討論・今後の研究会の企画について

配布資料（公開不可）

- ・ 永井 克孝「ライフサイエンスの今ー立ち止まって考えるー」
- ・ 岡崎 廉治「ケミカルサイエンスとジェンダーー共学大学と女子大学での教育・研究の経験からー」
- ・ Eiko Torikai & J. C. Williams
“Pink-Collar: Income Discrepancies by Gender Among US Academics”
- ・ 稲葉 カヨ「身体を護る免疫のしくみ」

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2008年度第3回研究会（通算第6回）プログラム

開催日時：2009年 1月 9日（金） 13：30～17：00
2009年 1月 10日（土） 9：30～17：00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（16人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー・特別委員／お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 **	今成 真	三菱化学株式会社顧問／J S T産学連携事業本部開発主監
（12人）	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	富崎 松代	奈良女子大学理学部教授
**	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
	藤枝 修子	お茶の水女子大学学術情報機構特任教授
	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	本河 光博	国際高等研究所フェロー・特別委員／東北大学名誉教授 科学技術振興機構先端計測技術推進部 PO
	横山 広美	東京大学大学院理学系研究科准教授

**：スピーカー

話題提供者	大隅 典子	東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター教授
（ゲストスピーカー）	長谷川 眞理子	総合研究大学院大学先導科学研究科教授
（3人）	長谷川 美貴	青山学院大学理工学部准教授

プログラム

1月9日(金)

13:30 研究会〔216号室〕

はじめに : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー・特別委員
お茶の水女子大学名誉教授

13:35 話題提供者: 鳥養 映子 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授

演題「WISE Conference 2008 (Seoul, Dec.19, 2008) 報告
: Women into Science and Engineering 活動の国際的広がり」

14:45 休憩

15:00~17:00

話題提供者: 今成 真 三菱化学株式会社顧問/JST産学連携事業本部開発主監

演題「日本の産学官連携」

1月10日(土)

9:30 研究会〔216号室〕

話題提供者: 大隅 典子

東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター教授

演題「女性科学者: キュリー夫人に続くロールモデルは?」

11:40 昼食〔コミュニティホール〕

12:40 研究会〔216号室〕

話題提供者: 長谷川 眞理子 総合研究大学院大学先導科学研究科教授

演題「進化生物学とジェンダー議論」

14:50 休憩

15:00 話題提供者: 長谷川 美貴 青山学院大学理工学部准教授

演題「ファーストプライオリティーと時間」

16:30~17:00 自由討論・今後の研究会の企画について

配布資料 (公開不可)

- ・ 今成 真「日本の産学官連携」講演要旨、講演資料
- ・ 大隅 典子「女性科学者: キュリー夫人に続くロールモデルは?」講演要旨
- ・ 長谷川 美貴「ファーストプライオリティーと時間」講演要旨

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2009年度第1回研究会（通算第7回）プログラム

開催日時：2009年 8月28日（金） 13：30～17：00
2009年 8月29日（土） 9：30～17：00

開催場所：28日：国際高等研究所 216号室（2F）、29日：セミナー1（1F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（18人）

研究代表者	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者 （14人）	今成 真	三菱化学株式会社顧問 科学技術振興機構イノベーション推進本部開発主監
	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	学校法人佐保会学園理事長
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
	富崎 松代	奈良女子大学理学部教授
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
	中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
	野末 泰夫	大阪大学大学院理学研究科教授
	藤枝 修子	お茶の水女子大学名誉教授
**	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	本河 光博	国際高等研究所フェロー／東北大学名誉教授
	横山 広美	東京大学大学院理学系研究科准教授

**：スピーカー

話題提供者 （ゲストスピーカー） （3人）	久米 健次 水本 伸子 室崎 生子	奈良女子大学教授 株式会社 IHI 人事部採用グループ担当部長 子どもの発達と住まい・まち研究室主宰 元平安女学院大学生生活環境学部教授
-----------------------------	-------------------------	---

プログラム

8月28日(金)

13:00 研究会〔216号室〕

はじめに : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授

13:35 話題提供者: 室崎 生子 子どもの発達と住まい・まち研究室主宰

元平安女学院大学生生活環境学部教授

演題「奈良女子大学創立百周年記念を協賛して行った同窓会佐保会特別
事業『卒業生の生活実態に関するアンケート調査－これからの時
代に相応しい女性の魅力ある生き方を求めて－』の中間報告」

15:05 休憩

15:20 質疑応答

16:20 休憩

16:30～17:00 次回検討課題の提案:(質疑応答を含む)

伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授

演題「大学における教員選考に関する議論の事始め」

8月29日(土)

9:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者: 久米 健次 奈良女子大学教授

演題「大学改革と女性人材育成」

11:00 休憩

11:10 質疑応答

12:10 昼食〔コミュニティホール〕

12:50 話題提供者: 水本 伸子 株式会社IHI人事部採用グループ担当部長

演題「女性の活躍－企業人事部の立場から」

14:20 質疑応答

15:20 休憩

15:30 話題提供者: 藤村 靖 国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授

演題”Reductionism in science and technology in information age;
is the issue related to the gender of the researcher?”

17:00～17:10 次回について

国際高等研究所
研究プロジェクト「女性研究者と科学技術の未来」
2009年度第2回研究会（通算第8回）プログラム

開催日時：2010年1月8日（金） 13：30～17：00
2010年1月9日（土） 9：30～17：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（17人）

研究代表者 **	伊藤 厚子	国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授
参加研究者	今成 真	三菱化学株式会社顧問
（14人）		科学技術振興機構イノベーション推進本部開発主監
	岩村 道子	東邦大学名誉教授
	奥村 晶子	学校法人佐保会学園理事長
	川崎 和子	奈良女子大学名誉教授
	高橋 克忠	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長
**	富崎 松代	奈良女子大学理学部教授
	鳥養 映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
**	中井 浩二	国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
	肥山 詠美子	仁科加速器研究センター素粒子物性研究部門 肥山ストレンジネス核物理研究室准主任研究員
	藤枝 修子	お茶の水女子大学名誉教授
	藤村 靖	国際高等研究所フェロー／オハイオ州立大学名誉教授
**	松岡 由貴	奈良女子大学理学部助教
	本河 光博	国際高等研究所フェロー／東北大学名誉教授
	若林 文高	国立科学博物館理工学研究部研究主幹

**：スピーカー

話題提供者	板東 久美子	文部科学省生涯学習政策局長
（ゲストスピーカー）	平岡 利枝	三菱電機株式会社住環境研究開発センター製品化技術開発部部长
（2人）		

プログラム

1月8日(金)

13:30 はじめに : 伊藤 厚子

13:35 話題提供者: 平岡 利枝

三菱電機株式会社住環境研究開発センター製品化技術開発部部長
演題「女性技術者と商品開発～心をつかむ商品開発とは～」

14:35 質疑応答

15:35 休憩

15:45 話題提供者: 中井 浩二

国際高等研究所フェロー／高エネルギー物理学研究所名誉教授
演題「女性研究者を伸ばしやすい環境づくり」

16:05～17:15 質疑応答

1月9日(土)

9:30 話題提供者: 板東 久美子 文部科学省生涯学習政策局長

演題「女性研究者の一層の活躍を目指して」

10:50 質疑応答

11:30 昼食

12:10 問題定義 : 伊藤 厚子 国際高等研究所フェロー／お茶の水女子大学名誉教授

演題「大学教員の人事のあり方について」

12:40 話題提供者: 富崎 松代 奈良女子大学理学部教授

演題「女性と数学」

14:00 質疑応答

14:30 休憩

14:40 話題提供者: 松岡 由貴 奈良女子大学理学部助教

演題「奈良女子大学における進路振り返り調査

--進路選択時期と、家族の影響について--」

15:40 質疑応答

16:30～17:00 自由討論・報告書作成について

配付資料 (公開不可)

- ・ 平岡 利枝 レジюме
- ・ 中井 浩二 レジюме
- ・ 板東 久美子「女性研究者の一層の活躍を目指して」
- ・ 伊藤厚子「大学教員の人事のあり方」
- ・ 富崎 松代「女性と数学」
- ・ 松岡 由貴「奈良女子大学における進路振り返り調査--進路選択時期と、家族の影響について--」